



あかがみ
赤紙の

しょうしゅうれいじょう

召集令状で

せんじょう

戦場へ





せんそう おお へいし ひつよう ちょうへい
戦争で多くの兵士が必要になり、徴兵
けんさ ごうかく だんせい ぐんたいにゆうたい めい
検査に合格した男性に軍隊入隊を命じる
りんじしょうしゅうれいじょう とど
「臨時召集令状」が届けられました。

りんじしょうしゅうれいじょう あか かみ つか
「臨時召集令状」には、赤い紙が使
われていたことから、あかがみ よ
「赤紙」と呼ばれて
いました。





い

いつまでも

へいわつづ
平和続けと

せんばづる
千羽鶴





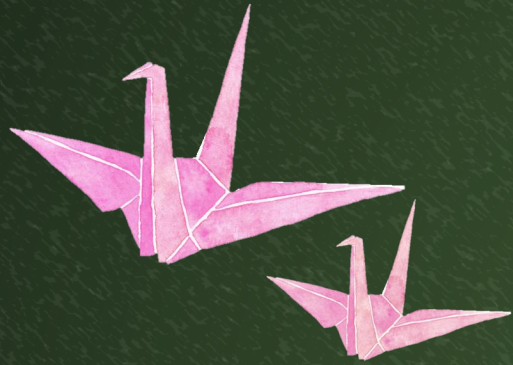
お づる にほん でんとうてき ぶんか お がみ ひと
折り鶴は、日本の伝統的な文化である折り紙の一つです。





こんにち づる へいわ かんが
今日では、折り鶴は「平和のシンボル」と考えられ、
おお くにぐに へいわ ねが お
多くの国々で平和を願って折られています。





ひとはね じぎょう
「ひとり一羽事業」

ふくやまし ねん ひとはね じぎょう
福山市では、2015年から「ひとり一羽事業」がスタート。

まいとしなつ ようちえん ほいくしょ せんばづる ふくやましじんけん
毎年、夏に、幼稚園や保育所などから、「千羽鶴」が福山市人権

へいわしりょうかん とど
平和資料館に届けられています。





資料提供

福山市人権平和資料館

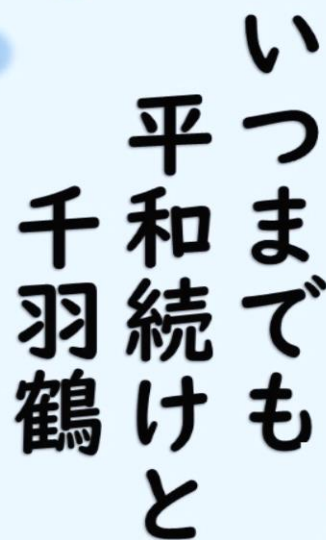
まいとし がつようか おこな ふくやましせんさいしぼつしゃいれいしき
毎年、8月8日に行われる「福山市戦災死没者慰霊式」では、
せんばづる けんのう
千羽鶴を献納しています。





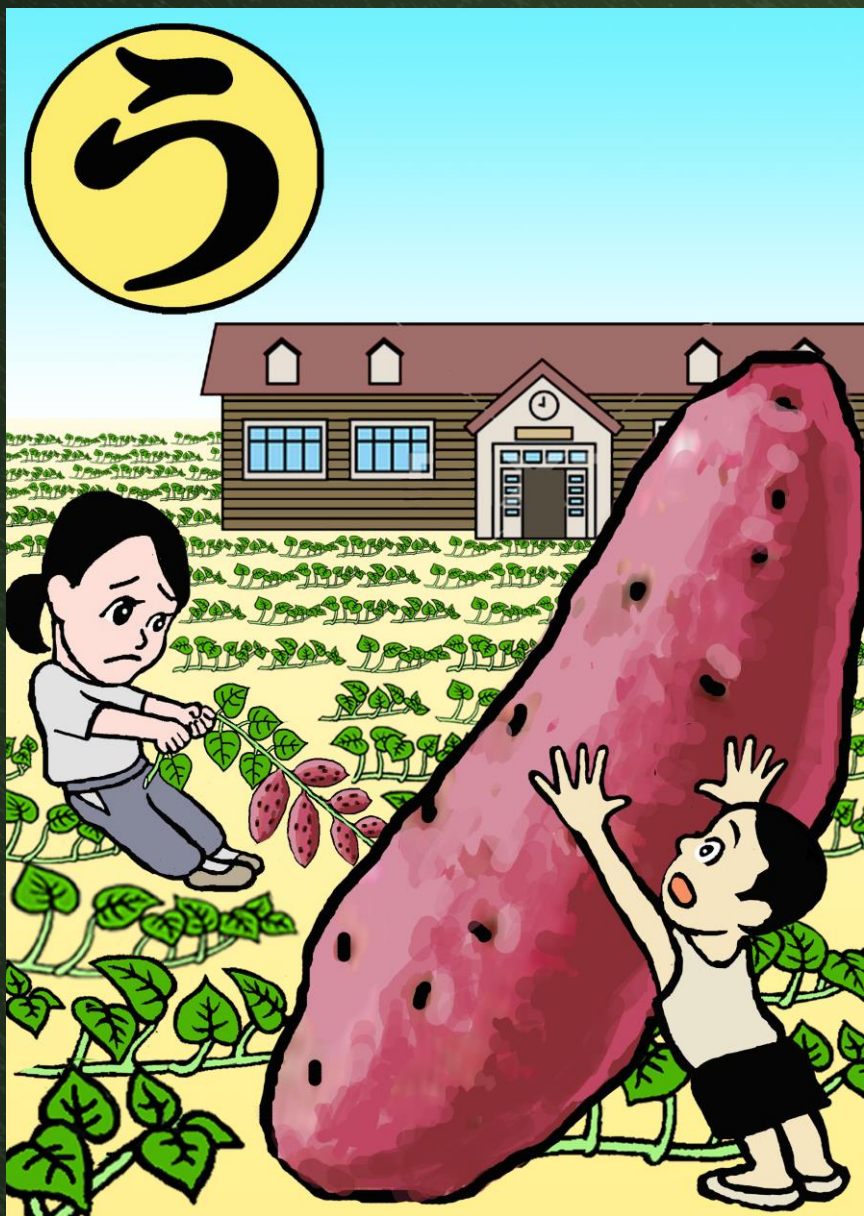
ふくやましじんけんへいわしりょうかん にゅうかんけん
福山市人権平和資料館 の 入館券は、
せんばづる さいせいし
千羽鶴の再生紙でできています。





へいわ　ねが　こころ
 平和を願う心を、いつまでも、どこまでも、
 おお　ひとびと
 多くの人々に
 ひろ
 広げていきましょう。





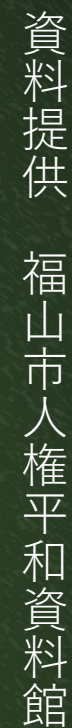
う

うんどうじょう
運動場を

たがや
耕し植えた

さつまいも
芋





う あ ち にわ がっこう こうてい
飢えをしのぐために、空き地や庭，学校の校庭を

はたけ いも う
畑にして、さつま芋を植えました。





つち ようぶん た おお いも
土はやせていて養分が足りず、大きなさつま芋は
そだ
育ちませんでした。





伝言板

八月十五日	八月十五日	八月十五日	八月十五日	八月十五日	八月十五日	八月十五日	八月十五日	八月十五日	八月十五日
戦争が終ったので帰りました村	同島から	広島から	広島から	広島から	広島から	広島から	広島から	広島から	広島から
御領に帰ります	上岡みちよ	杉原二郎	武男がいて	奥江サ	瀬戸田へ帰ります	織	織	織	織

八月十五日 戦争が終ったので帰りました村
八月十五日 同島から
八月十五日 広島から
八月十五日 広島から
八月十五日 広島から
八月十五日 広島から
八月十五日 広島から
八月十五日 広島から
八月十五日 広島から
八月十五日 広島から

八月二〇日 光南町の家が焼け
八月二六日 手城の実家へ
八月三十一日 新市の自宅にいる
正子連絡くれ

門田
瀬戸田へ帰ります



えき 駅に行き

たず びと さが
尋ね人を探す

でんごんばん
伝言板





せんそう や だ ひとびと ちほう そかい
戦争で焼け出された人々や地方へ疎開
ひと しゅうせんご こくがい ひ
していた人たち，終戦後に国外から引き
ひと ふくいんへい
揚げてきた人や復員兵など，多くの人への
れんらく ひとさが えき でんごんばん
連絡や人探しのために，「駅の伝言板」が
りよう
利用されました。





お
おいしいね
炊^たき出^だしむすびに
胸^{むね}熱^{あつ}く





くうしゅう よくあさ ひなんさき
空襲の翌朝、避難先にたくさんのおむ
とど
すびが届けられました。

こ おとな おな
子どもたちも、大人と同じ大きさのお
むすびをいただき、た だ
炊き出しのおむすび
は、とてもおいしく、うれしかったそう
です。



か



か

がくどうそかい
学童疎開

おやもと

親元をはなれ

さみしいな





こくみがっこう ねんせいいじょう こ
国民学校 3 年生以上の子どもたちは、
がくどうそ かい くうしゅう ちほう
学童疎開といって、空襲のない地方へ
しゅうだん いどう
集団で移動しました。

かぞく はな さび くわ じゅうぶん
家族と離れた淋しさに加え、十分な
た もの びょうき こ
食べ物もなく、病気になる子どもたちも
いました。





き

きんぞく

金属は

すべて兵器に

へいき

きょうしゅつ

供出だ





1941（昭和16）年9月1日，政
府は資源不足を補うために，「金属回収
令」で，鉄・銅・合金製品を供出させ
ました。

溶かして武器などの材料にするため，
寺の鐘・街灯・看板・ポストなどが回収
され，家庭では，門扉や鍋釜なども供出
しました。





くうしゅうけいほう
空襲警報

いのち

命からがら

ぼうくうごう

防空壕へ





こくみん じたく にわ はたけ かおく ゆかした あな
国民は、自宅の庭や 畑，家屋の床下に穴
ほ きぎ かんたん
を掘って、木切れをかぶせただけの簡単な
ぼうくうごう つく きんじょ がけ しゃめん あな ほ
防空壕を作り、近所の崖の斜面にも穴を掘
おお ひと はい ぼうくうごう つく
って、多くの人が入れる防空壕も作りまし
た。

たひとくぼうくうごうさんの人が防はい空壕に入ると、狭せまくて
高こうおん温になり、身み動うごきできないまなま亡くなる
人ひともいました。





け
げんぼく
原爆は
ヒロシマと
ナガサキに
お
落とされた





1945 (昭和20) 年8月6日 広島

に、9日 長崎に、原子爆弾が投下され、
合わせて21万4千人の人が亡くなりました。
した。

原爆の放射能は遺伝子を破壊するため、
今も、多くの被爆者を苦しめています。





こ
子の笑顔
えがお
みんなで守ろう
まも
戦争反対
せんそうはんたい





こ えがお ひろ しゃかい
子どもたちの笑顔が広がる社会には、
あか みらい
明るい未来があります。

こども しあわせ せんそう
子どもたちの幸せのために、戦争のな
へいわ せかい きず ねが
い平和な世界を築いていきたいと願って
います。





さ

咲きほこれ

ひやくまんぼん

百万本の

バラたちよ





1956 (しょうわ 昭和31) ねん はる 春, みなみこうえん 南公園
げんざい げんざい こうえん こうえん ふ きん ふ きん じゅうみん じゅうみん こうしゅう こうしゅう
(現在のばら公園) 付近の住民は, 空襲
あ は まち まち ぼん ぼん
で荒れ果てた街に 1, 000本のばらを
う
植えました。

2016 (へいせい 平成28) ねん がつ にち
ふくやまし まんぼん まんぼん さ ほこ まち
福山市は100万本のばらが咲き誇る街
になりました。





し

シベリア抑留

よくりゅう

飢えと寒さで

さむ

死にゆく戦友

せんゆう





しょうわ がつ にち それん
1945（昭和20）年8月9日、ソ連は
にほん せんせんふこく まんしゅう ちょうせんはんとうほくぶ
日本に宣戦布告し、満州・朝鮮半島北部
しんこう
に侵攻しました。

やく まんにん にほんぐん ほりよ みんかんじん
約58万人の日本軍の捕虜・民間人・
まんもうかいたくせいしょうねんぎゆうぐん
満蒙開拓青少年義勇軍などがシベリアの
しゅうようじょ おく こ
収容所に送り込まれました。

さむ ちょうじかんろうどう しょくりょう
とても寒いなかでの長時間労働や食糧
ぶそく やく まん せんじん しぼう
不足で、約5万8千人が死亡しました。





す

すみ
墨をすり

きょうかしよ

もじけ

教科書の文字消す

せんご きょうしつ

戦後の教室





せんそう お ぐんこくしゅぎ へいわてき
戦争が終わって、「軍国主義」「平和的
でないもの」などを教えることが禁止さ
れました。

あたらし きょうかしょ つく すうねんかん
新しい教科書が作られるまでの数年間、
てきせつ ぶぶん すみ め しょう
適切でない部分を墨で塗りつぶして使用
しました。





せ

せかいじゅう
世界中の人に
ひと

えがお
笑顔の花が

たくさん

さ
咲きますように





せかいじゅう えがお はな さ
世界中にたくさんの笑顔の花が咲き、
あか みらい う へいわ せかい ひろ
明るい未来が生まれ、平和な世界が広が
りますように！





そ

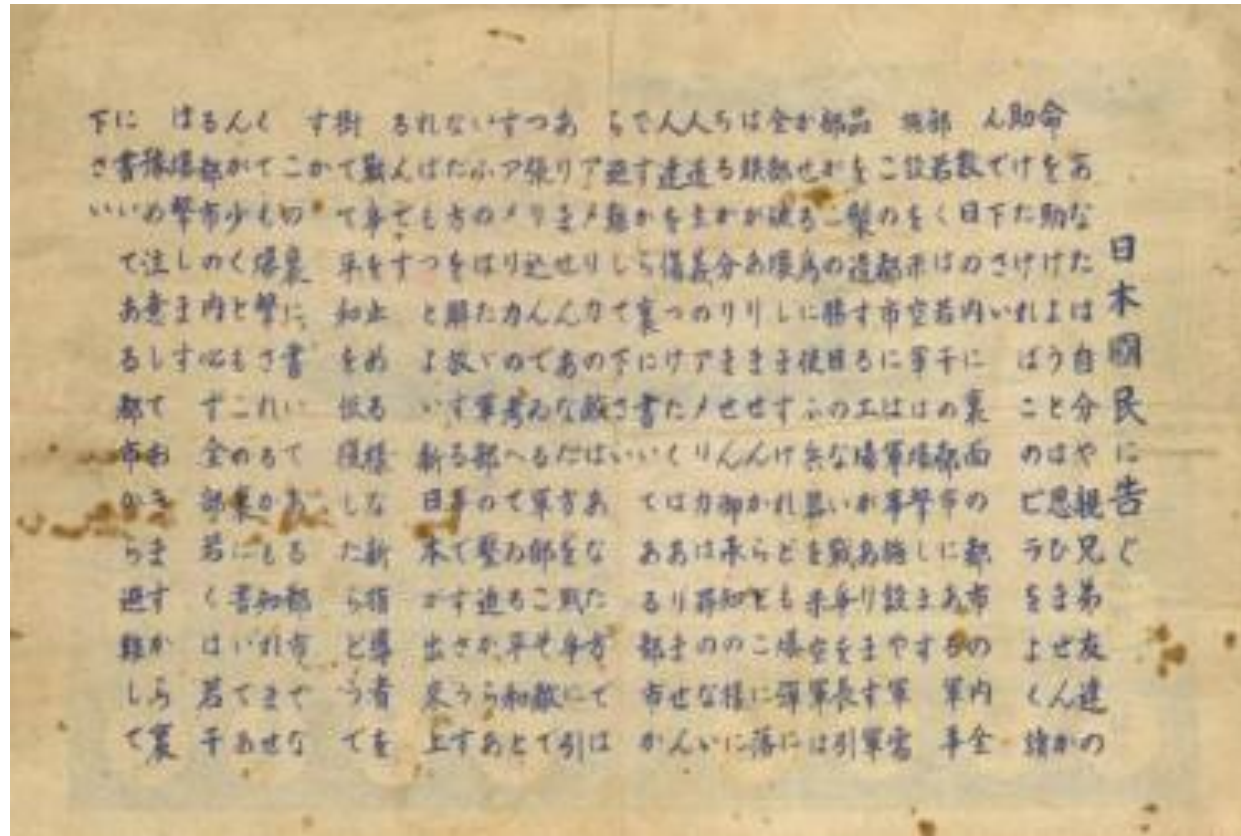
そら
空から伝単
でんたん

ふくやま まち

福山の街に

ろくまんまい
六万枚





がつ にち よる くうしゅう よこく でんたん
7月31日の夜，空襲を予告する「伝單」というビラが，

ふくやま まち まんまい
福山の街に6万枚もまかれました。



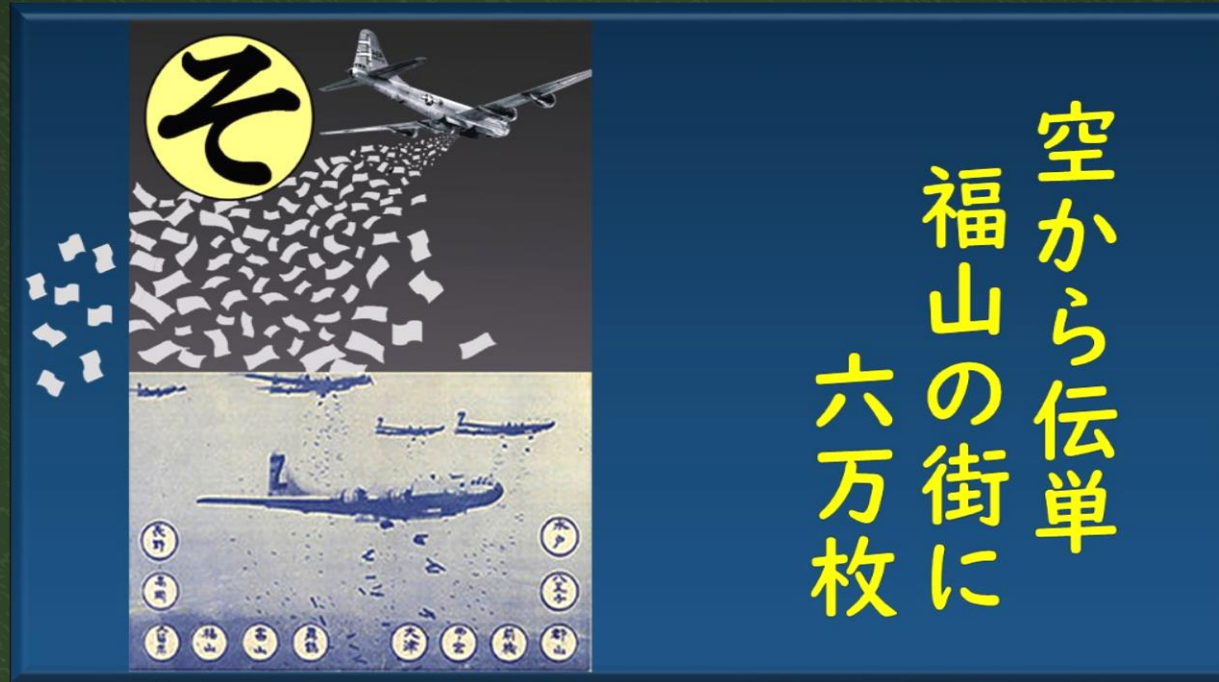


資料提供

福山市人権平和資料館

でんたん ふくやま もじ み
「伝単」には福山の文字が見えます。





とうじ でんたん ひろ よ きん
 当時は、「伝単」を拾ったり，読んだりすることも禁じ

でんたん ひろ ひと けいさつ とど
 られていたもので、「伝単」を拾った人は警察に届けました。





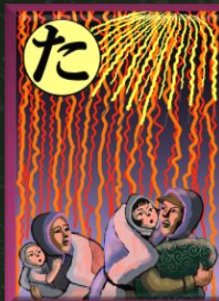
た

たき
滝のよるに

ふ
降り続けた

しょういだん
焼夷弾





滝のよう
に降り
続けた
焼夷弾

しゅうそくばくだん しょういだん ひとびと
集束爆弾の焼夷弾が、逃げまどう人々

うえ たき ふ つづ
の上に、滝のように降り続けました。

しょういだん せ な か あたま ちよくげき
焼夷弾が背中や頭を直撃し、そのまま

も あ ひ さん じょうきょう み
燃え上がるという悲惨な状況も見られ
ました。





ち

父^{ちち}戦^{せん}地^ち

来^こない手^て紙^{がみ}を

待^まち続^{つづ}け





父戦地
来ない手紙を
待ち続け

せんそう はじ ころ てがみ と
戦争が始まった頃は、手紙のやり取り
ができましたが、次第に戦 況が悪化し、
おっと ちちおや たたか
夫や父親が、どこで戦っているのかも
わからず、家族は届かない手紙を待ち続
けるしかありませんでした





つ

伝える^{つた}

いかなければ

ならない

戦争体験

せんそうたいけん





せんそうたいけん つた へいわ
戦争体験を伝えていくことが、平和な
せかい つく
世界を作ることにつながっていきます。

せんそう し せだい せんそう あ
戦争を知らない世代は、戦争に遭われ
かたがた さまざま おも う つ
た方々の様々な思いを受け継いでいくな
かで、せんそう せかい きず
戦争のない世界が築かれていくと
しん
信じています。





て

手^てをつなぎ
みんなで

つくろう

平和^{へいわ}の輪^わ





せ かい い ま せん そう くに
世界には今もなお戦争をしている国や
ち い き
地域があります。

せ かい じ ゅ う な か よ く て
世界中のみんなが、仲良く手をつなぎ
お お き な わ つ くり へ い わ ね が
大きな輪を作り、平和を願っていきたい
お も
と思います。





と

とんど祭り まつ

復興を願う ふっこう ねが

福山市民 ふくやましみん





「とんど祭り」は、1622（元和8）
年、水野勝成が福山城開城の折、町衆
が「どんど」を担いで築城を祝ったのが
始まりといわれています。

1934（昭和9）年を最後に祭りは
行われなくなりましたが、戦争が終わり、
1949（昭和24）年に、築城330
年を記念して、「とんど祭り」が復活しま
した。





な

何^{なに}もない

焼^やけ跡^{あと}に

バラツクを^た建て





ひとびと くうしゅう か め ひなん
人々は、空襲3日目ぐらいから、避難
さき もど や あと せいり はじ
先から戻って、焼け跡の整理を始めまし
た。

どだい といた やき かべ
がれきを土台に、戸板や焼トタンを壁
やね し じょうていど
や屋根にして、むしろを敷いた6畳程度
こや つく
の小屋（バラック）を作りました。





に

逃げ込んだ

ぼうくうごう

防空壕が

火の海に





逃げ込んだ
防空壕が
火の海に

ふくやまくうしゅう しょういだん
福山空襲では、たくさんの焼夷弾が
とうか しがいち ひ うみ
投下されて、市街地は火の海になりました。
た。

に こ ぼうくうごう なか こうおん
逃げ込んだ防空壕の中は高温になり、
ぼうくうごう いのち お ひと おお
防空壕のなかで 命 を落とした人も多く
いました。





の

のうか
農家に

きもの
もちこ
着物を持ち込み

たもの
か
食べ物に換え



ぬ



ぬ

ぬか
糠をこね

いも
芋づる混ぜた
ま

こうせいだんご
厚生団子





せんご ふくやま こうせいだんご
戦後、福山では、「厚生団子」という
こま きざ いも こめ しょうりょう
細かく刻んだ芋づると米ぬかと少量
こむぎこ ま だんご ふくやまえきちか
の小麦粉を混ぜた団子が、福山駅近くで
う しょくりょうきっぷ こうにゅう
売られていて、食糧切符で購入できま
した。

いも こめ あま うす さ
芋づると米ぬかの甘みは薄く、冷める
たと
と食べにくかったようです。





ね
ねっふう
熱風を
に
くぐつて逃げた
くうしゅう
よる
空襲の夜





ひとびと ふ そそ しょういだん なか ぬ
人々は、降り注ぐ焼夷弾の中を、濡ら
ふ とん も あ たてもの
した布団をかぶって、燃え上がる建物を
に
かいくぐって逃げました。

だんせい かぞく さき ひなん さいご
男性は、家族を先に避難させ、最後ま
しょうかかつどう
で消火活動にあたりました。





こくみん はいきゅう かぞくぜんいん じゅうぶん
国民は、配給だけでは家族全員の十分
しょくりょう て い のうか
な食糧を手に入れることができず、農家
で む きもの こめ やさい こうかん
に出向いて、着物などを米や野菜に交換し
てもらうしかない状況でした。





は

はちがつようか
八月八日は

ふくやま
福山が

くうしゅう
空襲を受けた日
ひ

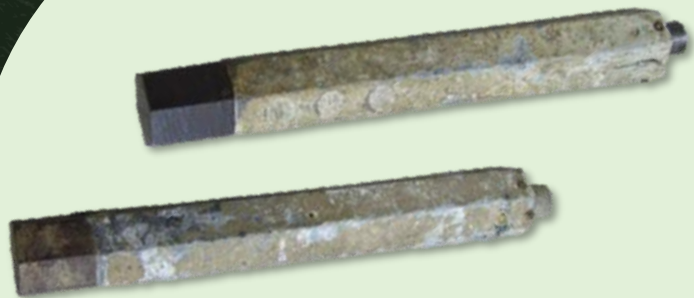




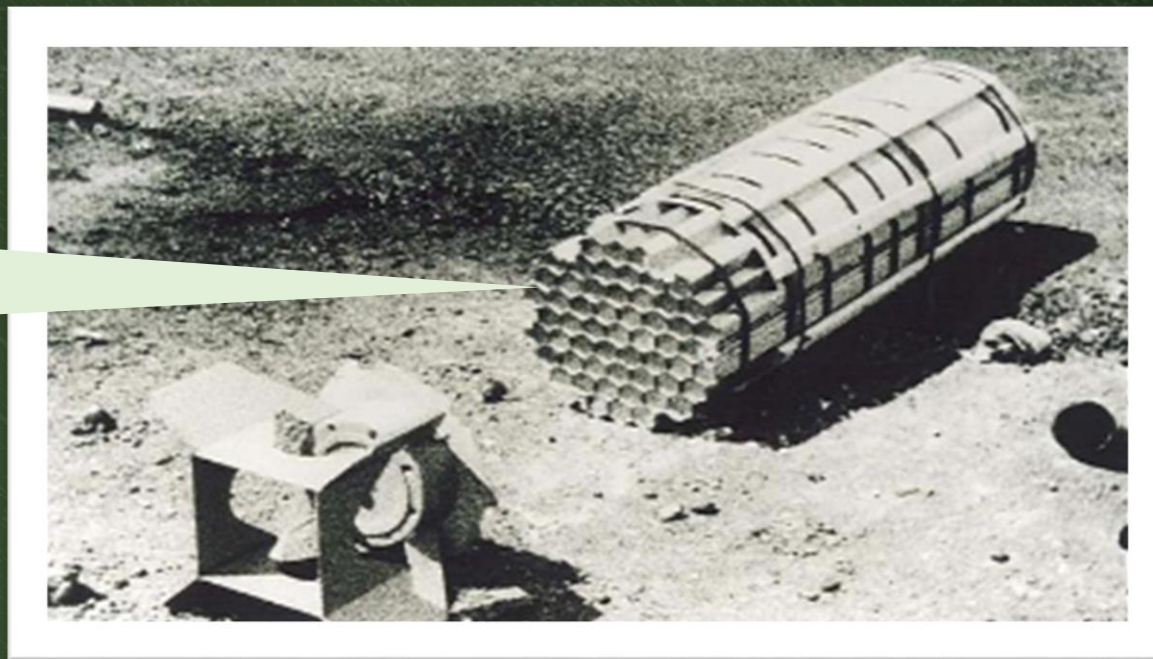
資料提供 福山市人権平和資料館

しょうわ ねんがつようか じ ふん ばくげきき
1945（昭和20）年8月8日10時25分、B29爆撃機
き こうげき はじ
91機により、攻撃が始まりました。





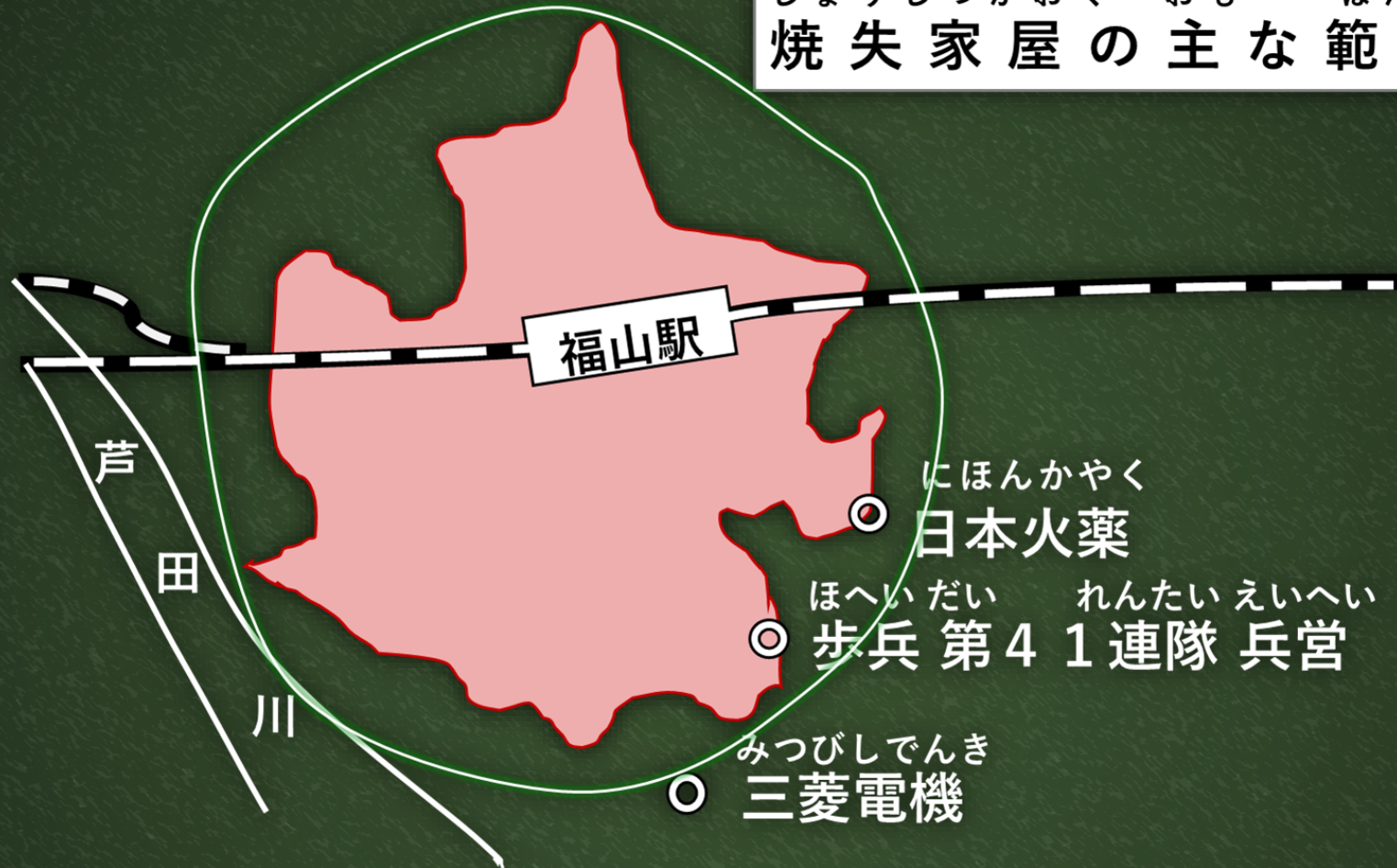
こがたしょういだん
M50 小型焼夷弾



ろっかくとう たてもの つ め つよ ちから も こがたしょういだん
六角筒で、建物などを突き抜ける 強い力を持つ 小型焼夷弾
まんぼん たき ふ そそ
18万本が、滝のように降り注ぎました。



しょうしつかおく おも はんい
焼失家屋の主な範囲



じかん ぶん こうげき まち やく も
1 時間 1 0 分の攻撃により、街の約80%が燃えてしまいました。



福山空襲（ふくやまくうしゅう）の被害（ひがい）の概要（がいよう）

市街地焼失面積（しがいちしょうしつめんせき） 3 1 4 ㍻^{ヘクトール}

犠 牲 者 数（ぎせいしゃすう） 3 5 5 名

重傷者数（じゅうしょうしゃすう） 8 6 4 名

被災人口（ひさいじんこう） 4 7 , 3 2 6 名

焼失家屋数（しょうしかおく） 1 0 , 1 7 9 戸

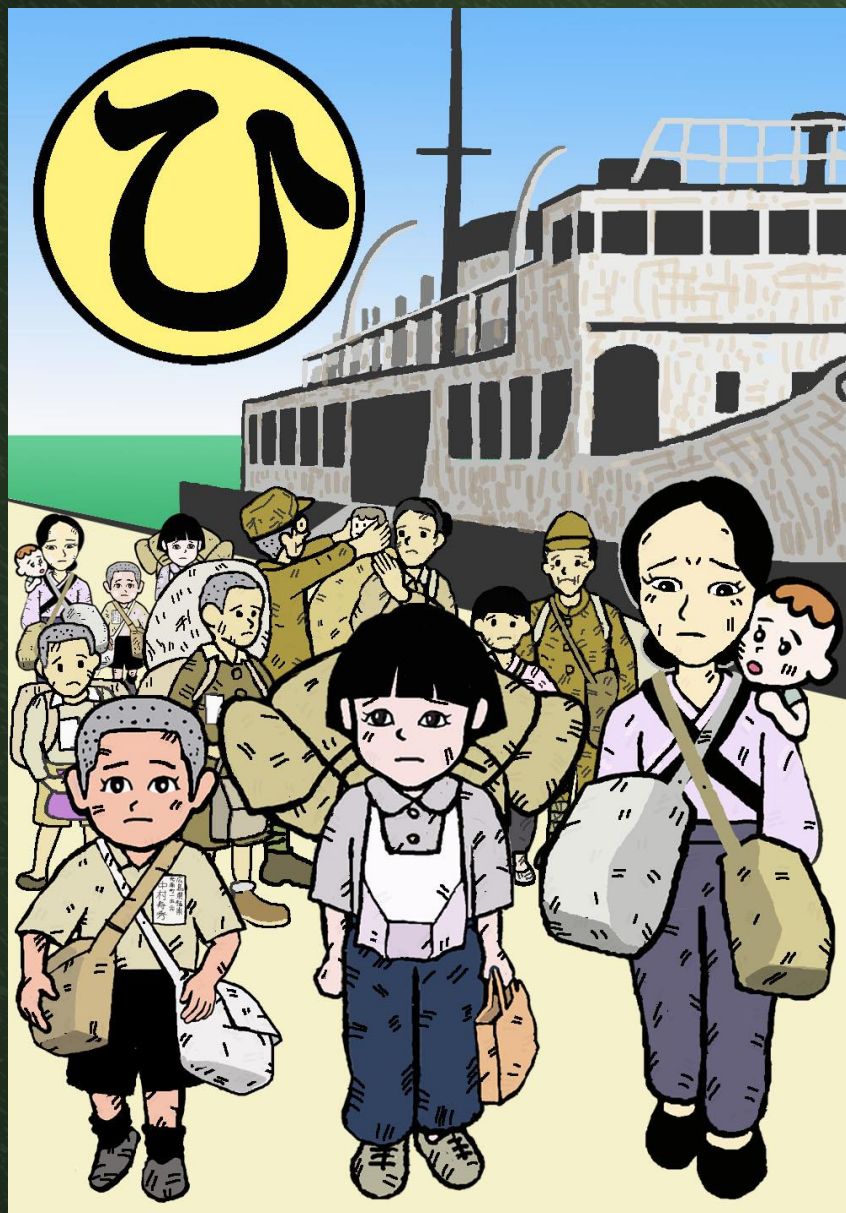
出典：「福山戦災復興誌」及び「福山市戦災死没者名名簿」





がつ にち にほん はいせん みと せんそう お
8月15日に日本は敗戦を認め、戦争は終わりました。





ひ

ひきあげしや
引揚者

いのち

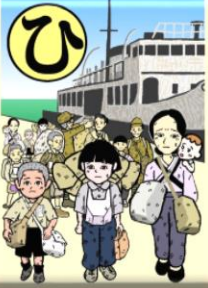
命をかけて

きこく

は

帰国を果たす





引揚者
命をかけて
帰国を果たす

しゅうせんじ こくがい ぐんじん ぐんぞく みんかんじん
終戦時、国外には軍人・軍属と民間人

まんにん にほんじん
など 660万人の日本人がいました。

はいせん たいざいさき じゅうみん ほうふく
敗戦により、滞在先の住民から報復を

う ちいき えいようしつちょう が し びょう
受ける地域もあり、栄養失調や餓死、病

き け が りゃくだつ ごうかん くわ ぎゃくさつ
気や怪我、略奪や強姦に加え、虐殺・

しゅうだんじけつ きこくとちゅう いのち お
集団自決など、帰国途中で命を落とす

ひと すく
人も少なくありませんでした





ふくやま

福山の

ふっこう

復興をかがげて

さんぎようふっこうはくらんかい

産業復興博覧会



ふ



産業復興博覧会

かかげて

復興を

福山の

しょうわ ねん がつついたち
1947（昭和22）年5月1日から
がつようか にちかん ふくやまし しょうこう
6月8日までの39日間、福山市と商工
かいぎしょ ふくやまえきまえ もと みつびしだいいちこうじょう
会議所は、福山駅前^の元 三菱第一工場
あとひろば ふくやまじょうしこうえん かいじょう ぜんこく
跡広場と福山城址公園を会場に、全国の
さんぶつ ちんれつはんばい びじゅつひん かどうてん えんげき
産物を陳列販売・美術品や華道展・演劇
みんぞくげいのう じょうえん ちゃかい かいさい
や民族芸能の上演・茶会などを開催。
にゆうじょうしゃ まん せんにな かぞ げいのう
入場者は24万7千人を数え、芸能
ぶんか ふっこう きうん たか
と文化の復興の機運を高めました。



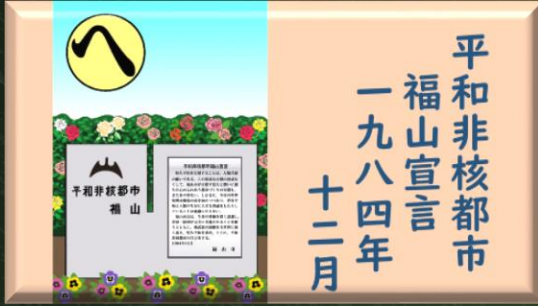


へい
わ
ひ
か
く
と
し
平和非核都市

ふく
や
ま
せ
ん
げ
ん
福山宣言

ねん
が
つ
一九八四年十二月





しょうわ ねん がつ にち
1984（昭和59）年12月17日，
ふくやまし へいわひかくと しせんげん
福山市は平和非核都市宣言をしました。

ねんご にほんひかくせんげんじちたいきょうぎ
2年後には，日本非核宣言自治体協議
かい かめい
会にも加盟しました。





ほ

ぼうくうずきん
防空頭巾は

二度といや
にど





ぼうくうずきん なまえ じゅうしょ がっこうめい けつ
防空頭巾に、名前や住所・学校名・血
えきがた か ぬ つ がいしゅつ さい も
液型を書いて縫い付け、外出の際に持ち
ある
歩きました。

ね とき まくらもと ひじょうよう い まめ
寝る時には、枕元に非常用の入り豆や
にちようひん い ぼうくうずきん お
日用品を入れたカバンと防空頭巾を置い
ね
て寝ました。

ぼうくうずきん ことば き こうしゅう
防空頭巾という言葉を知ると、空襲の
きょうふ おも だ ひと おお
恐怖を思い出すという人も多くいます。





ま
満蒙開拓
せいしょうねんぎゆうぐん
青少年義勇軍
かぞく
家族のために
しがん
志願して





せいふ しょうわ ねんいこう に
政府は、1932（昭和7）年以降、日
ほん まんしゅう のうぎょうい じんじぎょう かいし
本から満州への農業移民事業を開始し
しました。

 しょうわ ねん がつ さい
 1938（昭和13）年1月、15歳
 さい せいしょうねん たいしょう ぎゅう
から18歳までの青少年を対象に義勇
ぐん ぼしゅう かいたく かいたくだん けいび にな
軍を募集し、開拓と開拓団の警備を担わ
せました。

まん せんにな せいしょうねん じさくのう
8万6千人もの青少年が、自作農を
ゆめ しがん
夢みて志願しました。





み

みまも
見守るよ

いま
今もこれからも

ぼしさんにんぞう
母子三人像



見守るよ
今も
これからも
母子三人像



くうしゅう よくあさ すみよしちょう すいでん しょうし
空襲の翌朝、住吉町の水田で焼死し
ていた母子三人の姿が目撃されました。

に ど ひさん お
二度とこのような悲惨なことが起きな
いようにとの思いから、彫刻家 今城国忠
氏により母子三人像が制作されました。

しょうわ ねん ちゅうおうこうえん
1972（昭和47）年、中央公園に、
せんさいしぼつしゃいれい ひ ついおく こんりゅう
戦災死没者慰霊の碑「追憶」として建立
されています。





むさべつ
無差別に

おお
多くの市民が

ばくげき
爆撃を受け

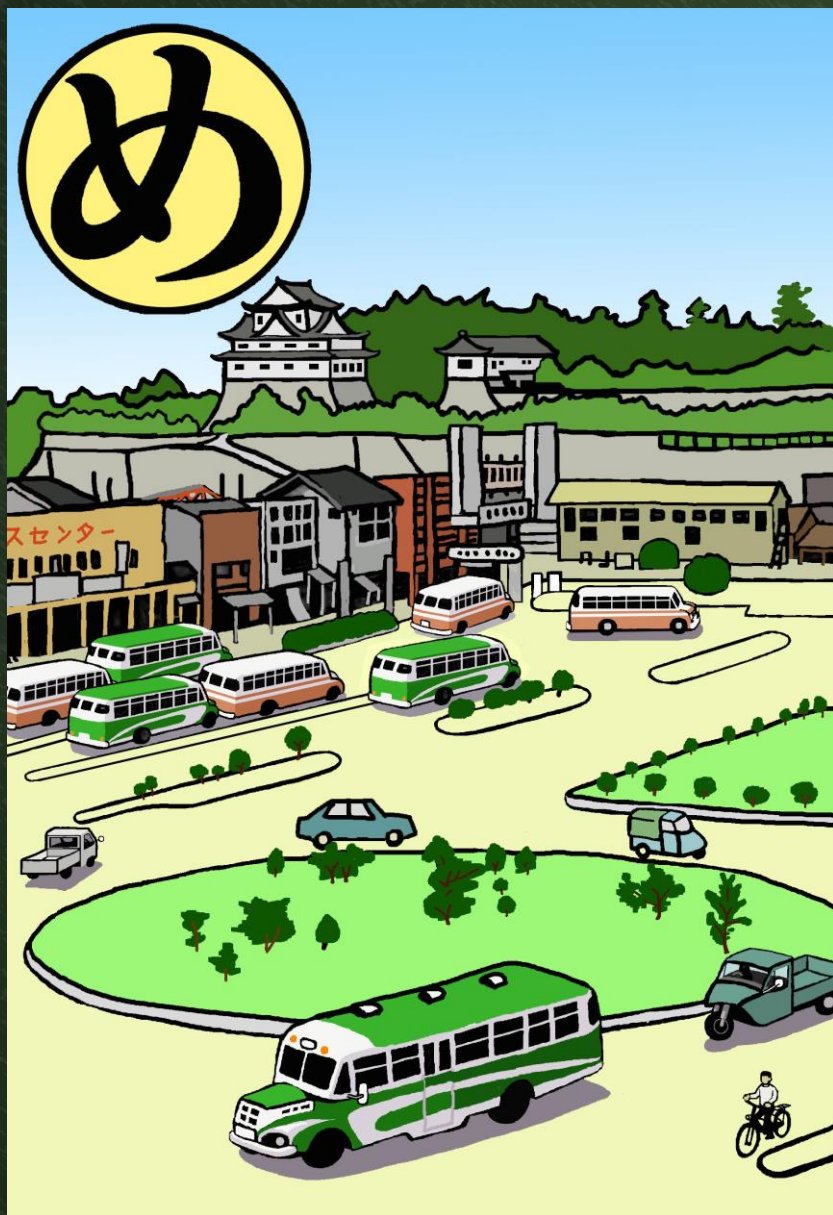




無差別に
多くの市民が
爆撃を受け

100機以上のB29が編隊を組んで
来襲し、退路を断たれた市民は逃げ惑う
ばかりで、防空壕や防火用水の備えでは、
命を守ることができませんでした。





めざましく

ふっこう

復興をとげた

ふくやまし

福山市





ふくやまし しょうわ ねん
福山市は、1946（昭和21）年に
せんさいふっこうぶ せっち じんこう まんにん
戦災復興部を設置して、人口10万人の
とし そうてい こうしゅしょうじゅう とし こうそう
都市を想定し、工主商従の都市構想を
た
立てました。

じゅうたく ていきょう がっこう さいけん はやく
住宅の提供・学校の再建も早くから
て が さんぎょうふっこうはくらんかい こくたい かい
手掛けられ、産業復興博覧会や国体も開
さい ぜんこく ほか とし はや ふっこう
催され、全国の他の都市よりも早く復興
と
を遂げました。





ものい
物言わぬ

いれいひ
慰霊碑が語る

ひさん
悲惨な戦争
せんそう





しゅうせんご せんそうぎせいしゃ たましい なぐ
終戦後、戦争犠牲者の魂を慰めようと
こえ たか
いう声が高まりました。

ふくやまし びんごごこくじんじゃしゅうへん せんそう
福山市の備後護国神社周辺には、戦争
ぎせい ひとびと たましい まつ おお
で犠牲になった人々の魂を祀った多く
いれい ひ
の慰霊碑があります。





や

ヤミ^{ごめ}米^かを買^かって
飢^うえしのぐ





ひとびと けいさつ と し さ
人々は、警察の取り締まりを避けて、
のうか で い いるい こめ
農家に出かけて行って、衣類と米などと
こうかん やみいち こうがく ね こめ
交換したり、「闇市」で高額な値で米を
て い
手に入れていました。





ゆめ語り
平和を学ぶ

ふくやまし
福山市

じんけんへいわしりようかん
人権平和資料館





1994（平成6）年8月30日に、
ふくやましじんけんへいわしりょうかん かいかん
福山市人権平和資料館が開館しました。

へいわ まな へいわ ゆめ
平和について学びあい、平和への夢を
かた ふくやまし みん だいせつ きよてん
語りあう福山市民の大切な拠点となっ
ています。





よ

夜^よなべして

きもの
着物をほどき

モンペ縫^ぬう





モンペは、^{あしくび}足首をしぼったズボンのよ
うな服で、^{ふく}腰回りが^{こしまわ}ゆったりしているの
で、^{かじ}家事や^{ぼうかくんれん}防火訓練・^{ひなんじ}避難時にもすばや
く^{うごく}動くことができ、^{じょせい}女性のほとんどが
^{にちじょうぎ}日常着として^{じょうよう}常用していました。

^{じょせい}女性は、^よ夜なべしてモンペを^ぬ縫ったり、
^{つくろもの}繕い物をしていました。





ら

ララ物資 ぶつし

戦後 せんごに届いた とど

救援 きゅうえんの品 しな





「ララ (LALA)」とは、「アジア^{きゅうえん} 救 援^{こうにんだんたい} 公認団体」のこゝとです。

1946^{ねん}年11^{がつ}月から1952^{ねん}年6^{がつ}月ま
で、ミ^みル^るク^くや穀^{こく}物^{もつ}、缶^{かん}詰^{づめ}やバ^ばタ^たー^など^のの
食^{しょく}料^{りょう}、生^いきたヤ^ぎや牛^{ぎゅう}乳^{にゅう}、衣^い類^{るい}や薬^{くすり}、
学^{がく}用品^{ようひん}などが日^に本^{ほん}に送^{おく}られ、「ララ物資^{ぶつし}」
と^よ呼^よばれていました。





り

りくぐんほへい
陸軍歩兵

だいよんじゅういちれんたい
第四十一連隊

ふくやま
福山に





りくぐんほへいだい れんたい めいじ
陸軍歩兵第41連隊は1896（明治
ねん ひろしまし そうりつ
29）年に広島市で創立され、1908
めいじ ねん げんざい ふくやまし てんえい
（明治41）年に、現在の福山市に転営し
ました。この転営が繁栄をもたらし、福
てんえい はんえい ふく
山市制施行につながりました。

しょうわ ねん りくぐんほへいだい
1944（昭和17）年、陸軍歩兵第
れんたい とう
41連隊は、フィリピンの「レイテ島の
たたか かいめつ
戦い」で壊滅しました。





る

留守^{るす}まもり

父^{ちち}の復員^{ふくいん}を

待つ^ま家族^{かぞく}





しゅうせんじ 終戦時、
こくがい 国外にいた 3 5 3 万人の
まんにん
ぐんじん ぐんぞく ぐんぞく ぐんぞく ぐんぞく ぐんぞく
軍人・軍属の復員・引揚げ事業は広範囲
にわたりました。

せんそうまっ き 戦争末期には、
しゅっせいへいし 出征兵士の
あんび 安否さえ
もわからなかったもので、
かぞく 家族は復員を
ま 待ちわびる日々でした。





れ 歴史れきしから

みんなで学まなぼう

戦争せんそうのこと





せんそう し せ だい か こ
戦争を知らない世代にとっては、過去の
せんそう れ き し まな へ い わ
戦争の歴史を学ぶことから、平和への
だ い い っ ぽ は じ
第一歩が始まります。





ろ
ローズマインドは
へいわ
つう
平和に通じる
あいことば
合言葉





「ローズマインド」は、^{ふくやま}福山の^{せんご}戦後
^{ふっこう}復興から^{はんせい}半世紀の^{あゆ}歩みのなかで^{たんじょう}誕生し
^ね根づいた^{ことば}言葉で、「^{おも}思いやり・^{やさ}やさしさ・
^{たす}助け合いの^あ心」を^{あらわ}表しています。

「^{せかい}世界に^{ほこ}誇れるばらのまち」をめざし
て、^{しみん}市民や^{だんたい}団体・^{じぎょうしゃ}事業者と^{ぎょうせい}行政が^て手を
^と取り合って、様々な活動を展開しています。
す。





わ
わたし
私たちは
戦争やめてと
せんそう
さけ
叫びます







わたし せんそう けいけん かたがた こえ
私たちは、戦争を経験された方々の声
う つ ふくやま せんそう へいわ
を受け継いで、福山から戦争のない平和
せかい きず
な世界を築いていきましょう。

